新・東の風

令和４年度
最終号

令和４年度も本日をもって終了します。１４日（火）には卒業式が行われ１０４名の卒業生に卒業証書を授与しました。今年も卒業証書を手渡した時、言葉に表すことが出来ない感情が心にあふれ、それをおさえるのに大変でした。

卒業式には１，２年生全員が参加できなかったので、卒業式での一部を紹介します。

私も感じていますが、過ぎ去ればあっという間の三年間ではなかったでしょうか。しかしこの三年間はとても長く辛い期間でもありました。思い起こせば、君たちの入学式は緊急事態宣言発令により急遽、中止になり夢にあふれていた中学校生活も学年別登校や分別登校、短縮授業など制限のある中でのスタートで、５月１５日にようやく入学オリエンテーションという形でスタートしました。

【中　略】

さて皆さんは、Ｗｉｔｈコロナの社会に変わりつつある中、東生野中学校を卒業していきます。そして新たなステージへ上がります。私は君たちに「夢を持て」と何度か集会などで話をしました。４月からはそれぞれが新しいステージでの生活が始まります。義務教育が終わり、自己責任の下スタートします。できることなら大きな夢を持ち、その夢の獲得のために、しっかりと毎日の生活を送ってほしいものです。決してあきらめず、くじけず。でも時には挫折するときもあるかもしれません。その時は少し時間を取って休み、再び前を向いて進んでいってください。「我慢」・「辛抱」の制限のある中学校生活を送れた君たちには、先ほども申したように「粘り強さ」が身についています。自信を持ってください。Ｗｉｔｈコロナにきっと役に立つことでしょう。

「とにかく、考えてみることである。工夫してみることである。そして、やってみることである。失敗すればやり直せばいい」

松下電器、現在のパナソニックの創業者で、亡くなられましたが、今なお「経営の神様」と呼ばれている松下幸之助氏が語った言葉です。Ｗｉｔｈコロナの現代社会で生きていくには、すごく当てはまる言葉であると私は思っています。

「夢を持て」と言い続けてきました。その夢を獲得するには、トライし続けてほしいと願っています。「無理に決まってる」とか、「どうせ無理や」とか、「できたとしても、ここまでや」とか、を先に思うのでなく、まずは考え、工夫し、トライしてほしいのです。

失敗してもトライ、トライ、トライ。

大阪市立東生野中学校長　川田　浩二